

## 令和3年度千葉県がん対策審議会がんとその共生推進部会議事録

1 日 時 令和4年2月10日（木） 午後3時00分から午後4時30分

2 場 所 WEB会議（主会場：千葉県庁議会棟第1会議室）

### 3 出席委員

大津部会長、五十嵐委員、坂本委員、佐藤（大）委員、佐藤（幸）委員、中村委員、能川委員、野田委員、花木委員、浜野委員、山内委員

### 4 議 題

#### 議事事項

- （1）部会長の選出について
- （2）第3期千葉県がん対策推進計画の中間評価について
- （3）治療と仕事の両立支援に係る企業向けリーフレットについて

#### 報告事項

- （1）がん患者の治療と仕事の両立支援に関する実態調査について
- （2）がん対策に関するアンケートについて

### 5 議事内容

議題 議事事項（1） 部会長の選出について

#### ○五十嵐委員

大津委員を推薦する。

#### ○事務局

大津委員の推薦をいただいた。承認の方は挙手をお願いします。

（出席者全員挙手）

では、全員一致ということで大津委員に部会長をお願いします。

○大津委員

承知した。

○事務局

それでは大津委員を部会長とし、以降の議事の進行は大津部会長にお願いする。

## 議題 議事事項（２）第３期千葉県がん対策推進計画の中間評価について

### 【事務局より資料１に基づき説明】

○五十嵐委員

シート８枚目「ちばがんナビ」の認知度・使用経験の表を見ると、病院利用をしている人の９３％が「知らない」と答えているが、個別目標３－１０の「千葉県がん情報 ちばがんナビ」の認知度の増加では、現状地は１９．３％、評価はＡとなっている。この１９．３％という数字はどこから出しているのか。

○事務局

「ちばがんナビ」の認知度・使用経験については、県民に対するインターネットアンケート調査結果の数字を利用している。シート８枚目「一般県民」のグラフより、一般県民を対象としたアンケートの結果から、「知っている」、「知っている、利用している」を合わせた数字が１９．３％となる。

「病院利用」についての認知度はまだまだ低いが、「一般県民」に対しては、前回よりも向上しているところで評価をしている。

○五十嵐委員

出典は分かったが、この結果で評価がＡであると、「改善しているからいい」のようなイメージを持つ。

今回のこの結果を見て驚いたが、病院にかかっている人が９３％も「知らない」というのは、少々問題であり、ここの部分は対策を考える必要があると思われた。

## ○事務局

五十嵐委員が御指摘になったとおり、実際に病院を利用する患者がまさに必要としている情報がなかなか届いていないという結果が、数字になって表れていると思う。事務局側も努力はしているところだが、ここを向上させていくところが、やはり課題となっている。

委員の皆様にもその点での御意見等を頂戴できればと思うので、御議論をお願いしたい。

## ○浜野委員

やはり実際に病院にかかっている患者が、どこから情報を得ているのかを推測しなければならぬと思う。

恐らく病院にかかる方は、主治医、相談支援センター、看護師等から情報を得ており、自らちばがんびに情報を取りに行くことは少ないのではないかと、根拠はないが推測する。そのため、できればアクセスログの解析で、その病院を利用している方と、そうでない方がどのようなページを見ているのかなどを是非知りたい。その区別はないにしろ、どのページがよく検索されているかなどのデータはあるか。

## ○事務局

ちばがんびのアクセス件数のデータについては、毎月抽出しており、千葉県がんセンターに設置している地域統括相談支援センターにも、情報共有をさせていただいている。

その結果から、がんを経験した方の体験談が非常に多く見られているというのが一番顕著な傾向であること、またピア・サポーターズサロンちばの開催についても、ある一定数の閲覧の回数をいただいていることが判明している。

## ○野田委員

ちばがんびについて、ホームページ内にアンケートがあり、恐らくそういったところから、どのページがよく見られているかなどをある程度解析されているのだと思うが、そのアンケートに答えようと思っても、すぐにアンケートページに飛ぶのではなく、その前にいくつかの手続きが必要となっており、そちらを読んでいると少々回答が不便であると感じる。そのため、そちらについてもアンケートを簡単に取れるように変えていくと、もう少々見ている方の声が直接拾えるのではないかと思った。

先ほど浜野委員が話したように、通院している方は、ちばがんびに載っている情報を

わざわざ取りに行かなくても、然るべきところから情報を得ているという可能性はあると思う。また、同じことは患者会にも言え、患者会などに来られる方には、そういったサイトがある等、必要な情報を得るためのサポートをさせていただいたりしているので、どちらかというと一般県民の方達への広報をしっかりとっていくのも大事ではないかと思う。

#### ○五十嵐委員

千葉県がんサポートブックもあまり認知度が高くないように思うが、新規患者の方全員に渡すなど、広報として何かやられていることはあるのか。

サポートブックを渡す際のがんなびもあることを伝えるなど、初診で来た方には必ず渡すことを原則にしたらどうかと思うが、いかがだろうか。

#### ○浜野委員

サポートブックの発行は、県からの委託事業でやっている。しかし予算がかなり限られており、予算内に発行できる部数はかなり少ない。県内の拠点病院等にも配付しているが、こちらで用意した分ではおそらく初診患者全員には配れないというのが現状だと思われる。

#### ○中村委員

配布部数については、各拠点病院に50～100冊くらいだったと思う。恐らくその後の足りない分は、各自PDFデータを印刷する仕組みとなっていたため、新患に配るのはやはり現実的ではないと思われる。

しかし、サポートブックは一生懸命配布をしていたが、ちばがんナビの広報については、今までにあまりしていなかったのかもしれないと思ったところがあり、ちばがんナビというサイトがある旨のチラシ等があれば、そちらを活用して初診の方へ渡すことはできるのではないかと思った。

#### ○坂本委員

国立がん研究センター東病院では、サポートブックをがん患者の情報コーナーに配置すると、あっという間に県から提供された分が無くなってしまいう状況にあり、現在はPDFデータを病院の方で年に3、4回印刷して出している。全新規患者へ配るということが病院内で可能かというところについては、要相談である。

また発言のついでに申し訳ないが、現在配布しているサポートブックに載っているQRコードの一部に読み取れないものがあるようなので、次の改定時にご配慮いただきたい。

#### ○野田委員

現在、話題が論点の3つ目にも入っていると思われる。

ちばがんナビについて、県庁ホームページのトップページから順番にクリックをしていくと、おそらく3クリック目辺りでちばがんナビのページにたどり着くと思うが、それはある程度県庁ホームページの仕組みやルールを知っているからこそ、そのようにたどり着けるのだと考える。今はネットで情報を得る人もかなり増えてきており、また一般の方は新型コロナウイルス感染症に関する情報がないかと思って県庁のホームページを見に行く方が大変多いと思われるため、例えばちばがんナビのバナーをトップページに貼り付けるなど、その辺りの工夫も具体的にしていかないと、なかなか目につかないのではないと思う。

また新聞やメディアなどの色々な媒体にて、「がんになったらがん相談」や、「千葉県のがんについてはちばがんナビというサイトへ」ということをもっと流していかないと、一般の方に届くことはなかなか難しいと思われる。

#### ○大津部会長

千葉日報社の佐藤委員より、何か効率的な方法や情報等がありましたら教えていただきたい。

#### ○佐藤委員

現在、千葉日報のサイトのアクセスがとても良いが、それも新型コロナウイルス感染症の情報を見に来る方が沢山いること、またニュースがインターネットで読まれる時代となっているためである。そのため、ネットの場を作るなど、そういう形がとても認知度向上に役立つと思われる。また先ほどのお話から、冊子もよく読まれているということなので、紙媒体でお知らせすることも同時にやるべきであるとも思う。

#### ○大津部会長

花木委員はどうか。もし御意見あればお伺いしたい。

## ○花木委員

私も自身で立ち上げた法人で冊子を作り、配布をしているが、病院利用者となると高齢の方が多く印象を持ち、そのような方が冊子とネット検索のどちらで情報を読みやすいかと考えると、比較的目の前に物がある冊子の方が情報を読みやすいと思われる。自身が治療をしていた際、入院中に相部屋の他の患者を見ていると、やはり60代、70代の方は新聞や雑誌など、以前から使われているメディアが馴染みやすいのだと感じた。その方達がスマホでネット検索や、パソコンの持ち込みなどをするイメージは少々つきにくいので、シート8のグラフにて、一般県民や患者会員よりも病院利用者の認知度が低いのは、おそらくその方達の年代的属性によるところも一部あるのだと思われた。

うまい具合に紙媒体とネットを併用していくような進め方が必要だと思う。

## ○大津部会長

論点の1つ目である、がん相談支援センターの認知度に関してはどうか。当院ではSNS等により発信をしている。坂本委員より説明をお願いしたい。

## ○坂本委員

当院では、相談支援センターの方で、Facebook を設けており、ピア・サポーターズサロンちばやセミナーの開催等の際にはそちらで周知を図っている。サイト自体のいいね数はとても少ないが、ピア・サポーターズサロンちばの開催について投稿した際には、色々な方がシェアをしてくださり、閲覧数自体は、1度で2,000人ほどとなった。そういったところから、「こういうものがあるんだ」と知っていただくきっかけとしてのSNSはとても有効であると感じた。

また、現在は集合形式ではなく、オンライン形式により各種セミナーを開催しているが、そちらの前後でも出来る限り広報をさせていただいている。先ほど花木委員からお話があったように、患者本人は高齢の方が多く、紙媒体や対面等を非常に好まれるのと同時に、子供世代がネットで情報収集し、そこで知り得たことを親へ伝えるという傾向も見受けられるため、やはり2方向から発信できるとよい。

○大津部会長

中村委員より、千葉県がんセンターにて、その他の取り組み事例等がありましたら教えていただきたい。

○中村委員

千葉県がんセンターでは、初診患者全員に「がん相談支援センターという機関がある」、「このような相談ができる」と必ず案内をしている。しかしそれを始めて1年経つが、飛躍的に件数が伸びたということはない。周知に関する数値調査をするたび、少々頭打ちであると感じているところがあり、そう考えた際に、もう生活の中にその情報を得る機会を組み入れるしかないだろうと考えた。

本日電車にて通勤をしていた際、東京都のがんや療養支援に関するポスターが吊り革近くの目に入る場所にあり、そのような広報をしていかないと、就労世代の方には情報を届けられないと感じた。千葉県では「ちば県民だより」を毎月発行しているため、そちらで年に1回～3回特集組み、紹介だけではなく現場取材する等の記事を掲載し、その後も定期的ながん相談支援センター、就労支援、ちばがんナビの記事を掲載するなど、こつこつと広報を行っていかないと恐らく伸びないと思われる。

○大津部会長

他にも意見があるかと思うが、本日いただいた意見に対する対応については事務局含め私にご一任いただくということでよろしいか。

## 議題 議事事項（3）治療と仕事の両立支援に係る企業向けリーフレットについて

### 【事務局より資料2に基づき説明】

○山内委員

資料を見ると、がんになられた患者の権利に対して、「守っていきましょう」、「働きましょう」というような内容に近いのかなと思う。もちろんがんになりたくてなったわけでもなく、働ける状況であれば働き続けなければならないとは思いますが、企業も営利団体のため、何もできない方を雇い続けるというのは難しいと思われる。よく患者でお会いするのが、以前肉体労働をされていて、働き続けたいがパソコンも何もできず、がんの状況では肉体

労働も無理というご年配の方であり、そのような方に対し、働く場所を会社が用意するというのは非常に難しい。そこで、パソコンのできない世代に対するパソコンの支援や、何らかの技能等を身につけるような支援など、そのような場を周知できるような内容が踏まえてあると企業側も雇用をし続けやすく、患者も働きやすい状況になっていくのではないかと考えた。

#### ○佐藤（幸）委員

労働局ではハローワークを利用し、患者の就労支援に力を入れている。リーフレット案の真ん中に、相談窓口一覧ということで幾つかのがん診療連携拠点病院が記載されているが、そのうちの6病院と労働局の方では連携協定を結んでおり、病院内での相談窓口なども設けている。がんになってもハローワークと病院、また関係機関との連携を持ったチーム支援によって、就労は可能であることを私たちももっと周知しなければいけない。また教育の問題、リカレント教育というのも考えていかなければ、再就職や継続就職が難しいとも思われる。また情報提供コーナーなども、もっと作っていかなければいけない。

#### ○能川委員

両立支援は極めて重要な課題であり、医療側と企業側がよくお互いに理解しないと、総論だけではうまくいかない。例えば医療側に関しては、千葉県医師会の産業医研修会にて、1年8回、1回100人以上の医師が集まるため、その方々に周知することなどを実施している。

千葉産業保健総合支援センターでは、以前に労働局等と共催で、県内の医師会に加入している先生方約3,000人に対し、「両立支援のカードを置いていただけないか」という広報をし、「置いてもよい」というような反応もいただいている。その他にも県内の大病院に対して職員が集まる幹部会へ産業医の先生を派遣し、周知を図っている。

先ほどもお話したが、やはり人を雇うには利益を生み出さないとなかなか難しい。私たちの組織では、新しく両立支援の専門相談員を雇用し、実際に病院等や企業へ派遣して相談を受けており、具体的に希望される患者、企業に対しての支援を始めている。しかし、難しいということを強く実感しており、医療機関と企業との話し合いの場をぜひ県の方で設定していただけるよう、事務局の方でご検討いただけるとありがたいと思う。

### ○五十嵐委員

がん患者団体連絡協議会の会員で化粧品を売る仕事をしていた方が、治療後に立ち仕事  
が辛い、たびたび治療で点滴を受けに行かないといけない、また正職員ではなく派遣の非  
正規職員であるため、次の仕事が見つからないというお話をしていた。50歳を過ぎて病  
気を抱えた中で再就職をしたいという時、ハローワークも色々と動いているようだが、実  
際はとても難しいと思われる。何とかその辺りを改善できないかと思う。

### ○野田委員

先ほどの山内委員のお話しは、現実のことであり本当にその通りだと思う。もちろん、  
がんになっても働きたいと思う人が働けるように、企業も医療も応援をするというこ  
とは、総論としては素晴らしく、私も是非そうあって欲しいと思う。しかし正直なところ、  
専門性であったり、その方でなければできない仕事や、何か特別なものがあるような方達  
と、特にこれといった学歴や専門性がなく、身一つでパートをしているような非正規の方  
が同じような支援を受け、同じように働きたいということは、現実的には難しいだろ  
うと思われる。がんの患者といっても、どの部位のがんで、どういう病状で、後の生活にど  
の程度影響があるのかというのは、本当に1人1人違うので、そこを全部拾って救うのは、  
理想ではあるが正直難しい。そのためまずは大きな企業からでよいので、しっかり仕組み  
を進めていただき、そちらを少しずつ非正規等の方々へ工夫や支援ができるようなことを  
考えていくというのが現実的だと思われる。

### ○坂本委員

リーフレットに関して、恐らく予算の問題もあると思われるが、参考資料4の患者向け  
リーフレットを作成した時のように、デザインの作り込みも大事かと思う。たくさんの資  
料を色々渡される中で直感的に目を止め、手に取って読もうという気持ちになっていただ  
くためには、是非デザインについてもご検討いただくとよいのかなと思う。

### ○大津部会長

この点は事務局の方と相談して進めさせていただければと思う。また、参考資料5とし  
て意見書がついているとのことなので、他に何かご意見があれば、事務局に送付をお願い

したい。

**議題 報告事項（１）がん患者の治療と仕事の両立支援に関する実態調査について**

**【事務局より資料３に基づき説明】**

○大津部会長

がん患者の治療と仕事の両立支援に関する実態調査について何か御質問はあるか。

（発言なし）

**議題 報告事項（２）がん対策に関するアンケートについて**

**【事務局より資料４に基づき説明】**

○大津部会長

がん対策に関するアンケートについて何か御質問はあるか。

（発言なし）

○大津部会長

国立がん研究センターでは、組織改編を行い、SNS等を含めた拡散の仕方をしていこうということで、現在動きつつある。また就労支援関係について、坂本委員の方から何かあるか。

○坂本委員

就労支援に関する大きな流れとしては、もともと企業、病院の主治医、患者の３者が一堂に会するということが物理的になかなか難しく、一つの情報共有の阻害要因となっていたこと、現在対面がコロナ過の中で難しくなっている、というところでのウェブ化が大きな動きである。私自身も参加させていただいている厚生労働省からの研修等についても、紙媒体ではなく、WEBを用いた情報共有とのように大きく方向性としてもシフトしてきている。

## その他

○大津部会長

その他、何か御発言はあるか。

(発言なし)

本日の準備された議題は以上で終了する。

**【議事終了】**